

平成30年度 芸術科「音楽Ⅰ」SYLLABUS

単位数	2 単位	学科・学年・学級	普通科 第1学年 全クラス
教科書	改訂版 ON! 1 (音楽之友社)	副教材等	MY SONG 6訂版 (教育芸術社) NEW MUSIC NOTE (教育芸術社)

1. 学習の到達目標

- ① 音楽の諸活動(独唱・合唱)を通して、創造的な表現の能力を伸ばす。
- ② 鑑賞の能力を高めるとともに、音楽史に於ける音楽の変遷を考察する。
- ③ 音楽に対する豊かな感性と音楽を愛好する心情を養う。

2. 学習の計画

学期	月	単元名	学習事項	学習内容や活用	評価の材料等
前 期	4	・呼吸法基礎 ・発声法基礎 ・校歌斉唱	・発声に必要な呼吸法の説明 ・歌唱に必要な発声法の説明 ・校歌斉唱を通して呼吸法、 発声法を確認する。 ・音程等の間違いを説明する	・普段の会話のように自然に大きくブレスする ・息を漏らした発声法が不自然であることを説明し 普通に発声させる。 ・不自然な発声法では歌えないことや音程がずれて しまうことを体感させる。 ・特に男子の1オクターブ低い歌唱を正す。	独唱実技考查
	5	・校歌斉唱 ・鑑賞 日本音楽	・校歌を暗譜し正しい発声、 音程で歌う。 ・長唄、催馬楽、箏曲、双魚譜	・歌うことは難しいことではなく楽しいことである ことを体感させる為しっかりと発声させる。 ・日本音楽の全体像を音楽史に沿って説明・鑑賞する。	
	6	・独唱 ・合唱 ・鑑賞 古代・中世の音楽	・ジョルダーニ作曲「カーロ・ミオ・ベン」 ・「MY SONG」よりクラス選択曲 ・グレゴリオ聖歌集より「ディエス・イレ」 ・ジョスカン・デ・プレ「アヴェ・マリア」 ・パレストリーナ「汝はベテロなり」	・イタリア古典歌曲を通して歌唱法や感情表現など 音楽の様々な要素を学ぶ。 ・独唱で学んだ歌唱法を合唱にも生かす。 ・古代に音楽が存在したことを考察することから人 間にとって音楽が必要であるかを討論させる。 ・グレゴリオ聖歌が19世紀作曲家の作品に影響して いることについて考察させる。 ・対位法、通模倣様式等について学ぶ。	音楽ノート検査
	7	・合唱 ・鑑賞 バロックの音楽	・クラス選択曲練習 ・モンテヴェルディ「聖母マリアの夕べの祈り」 ・ヴィヴァルディ合奏協奏曲集 「和声と創意への試み」から「四季」 ・J.S.バッハ「トッカータとフーガニ短調」 ・J.S.バッハ「ブランデンブルク協奏曲第3番」	・曲想やダイナミックス、ハーモニーについて考え ながら合唱を完成させる。 ・教会音楽について理解を深める。 ・モノディー様式や通奏低音について学ぶ。 ・合奏協奏曲の特徴や構成、使用楽器について学ぶ。 ・楽器の発達や音楽様式の変化によって、音楽が変化 してきたことを考える。	定期考查筆記
後 期	9	・合唱 ・鑑賞	・クラス選択曲発表及び審査 ・映画「アマデウス」	・各クラス毎に発表したものを録画し自分達で審査。 ・ウィーン古典派の代表的作曲家W.A.モーツァルト の生涯を通して古典派の時代背景等に触れる。	合唱コンクール
	10	・独唱 ・鑑賞 古典派の音楽	・ジョルダーニ作曲「カーロ・ミオ・ベン」 ・ハイドン「弦楽四重奏曲 ひばり」 ・モーツァルト「クラリネット五重奏曲」 ・モーツァルト「レクイエム」 ・ベートーヴェン「ピアノソナタ第8番 悲愴」	・前期に学んだイタリア古典歌曲の歌唱法や感情表現の 完成度を高める過程のなかで音楽表現能力を高める。 ・ウィーン古典派の代表的作曲家ハイドン、モーツ ァルト、ベートーヴェンの作品を中心に古典派音 楽に触れるとともに特徴を学ぶ。 ・交響曲、協奏曲、室内楽の音楽の作りを考察する。 ・「ソナタ形式」について考察する。	

学期	月	単元名	学習事項	学習内容や活用	評価の材料等
後 期	11	・独唱 ・鑑賞 ロマン派の音楽	・ジョルダーニ作曲「カーロ・ミオ・ベン」 ・シューベルト「冬の旅」 ・メンデルスゾーン「ヴァイオリン協奏曲」 ・ショパン「ポロネーズ英雄」 ・シューマン「子供の情景」 ・ドヴォルジャーク「交響曲第9番 新世界から」 ・ワーグナー「楽劇 ニュルンベルクのマイスタージンガー」 ・ワーグナー「楽劇 ワルキューレの騎行」 ・ムソルグスキー「組曲 展覧会の絵」 ・ドビュッシー「交響詩 海」 ・ヴェルディ「オペラ 椿姫」 ・ビゼー「オペラ カルメン」 ・プッチーニ「オペラ トゥーランドット」	・歌唱発表(準備の状況に応じて) ・ドイツリートや連作歌曲集について学ぶ。 ・協奏曲の特徴やロマン派音楽について考える。 ・ロマン派特有の音使いを古典派と比較する。 ・「トロイメライ」等の代表的な音楽を味わう。 ・国民楽派と言われる他の作曲家の作品にも触れる。 ・マイスタージンガーの意味を理解し時代背景等に触れる。楽劇についても考察する。 ・独特な音楽感からこの音楽の影響力について考察する。 ・プロムナードの変化や各絵の特徴を考えながら鑑賞する。 ・印象主義の音楽について考察する。 ・ジャズや吹奏楽、楽器の開発などにも触れながら考える。 ・オペラでの音楽表現について考察する。ベル・カント唱法についても触れる。	独唱実技考查
	12	・独唱 ・鑑賞 近代・現代の音楽	・ジョルダーニ作曲「カーロ・ミオ・ベン」 ・ラヴェル「ボレロ」 ・レスピーギ「ローマの松」 ・ストラヴィンスキー「バレエ音楽 春の祭典」 ・バルトーク「管弦楽のための協奏曲」 ・ミュージックコンクレート「追憶」	・歌唱発表(準備の状況に応じて) ・ボレロのリズム打ちなどを通して理解を深める。 ・ローマ三部作に触れながら解説する。 ・大自然の様子を大胆に表現していることを鑑賞前に説明してから聴く。 ・ソナタ形式を用いた協奏曲であることを説明後鑑賞する。 ・「具体音楽」とは如何なるものか考察してから鑑賞する。	独唱実技考查
	1	・独唱 ・鑑賞 現代日本の音楽	・ジョルダーニ作曲「カーロ・ミオ・ベン」 ・間宮芳生「合唱のためのコンポジション」 ・伊藤康英「吹奏楽のための交響詩 ぐるりよぎ」	・歌唱発表(準備の状況に応じて)	定期考查筆記 独唱実技考查
	2	・合唱	・クラス選択曲練習及び発表	・曲想やダイナミックス、ハーモニーについて考えながら合唱を練習する。 ・技術や知識だけでは完成しない音楽の力を考えながら合唱を創る素晴らしさを体感させる。	音楽ノート検査
	3	・合唱 ・鑑賞	・全クラスの審査 ・ミュージカル「ウエストサイド物語」	・クラス最後の合唱について話し合う。 ・ロミオとジュリエットに由来する話の内容、人種問題などの人間の愚かさについて討論する。ミュージカルでの表現について考察する。	合唱コンクール

3. 評価の観点

関心・意欲・態度	芸術音楽に関心を持ち、自ら進んで鑑賞に取り組む態度があるか。歌唱などの実技に意欲を持って取り組む態度があるか。
思考・判断・表現	音楽史の学習を通して音楽の変遷について考え、現在の芸術家が何を求めているのか、音楽の必要性などについても考えられるか。主体的に音楽を表現する態度があるか。
技能	基本的な発声法や歌唱の技術を身に付け表現に生かしているか。音符や音楽記号などの意味を理解し正しい楽譜を作成できるか。
知識・理解	芸術音楽における様々な知識を身に付け、音楽を鑑賞・表現する意義を理解しているか。

4. 評価法

定期考查は第2回、第4回のときに筆記試験を実施する。内容は「西洋音楽史」「楽譜の基礎」「芸術歌曲」など。実技考查は第3回、第5回定期考查の前に実施する。その他に音楽ノートの検査、授業の取り組み方などから総合的に評価する。

5. 担当者からのメッセージ

リズム打ちなどの学習は行いますが器楽は実施しません。独唱・合唱を通して音楽表現を身に付けてもらいたいと思います。ベルカント唱法や腹式呼吸などを学ぶ前に正しい呼吸法・発声法を理解することから始め、歌唱に対する消極性を改善します。鑑賞は西洋音楽史を軸に進めていきます。様々な時代や地域によって異なる音楽には共通点があったり、現在にも通じるものが存在するなど不思議なことが多々あります。現代の音楽界が何を求めているのか、音楽の存在意義などについて考えてみることも楽しいですね。